

RKB 毎日放送

活動名	岡垣町平和朗読事業(福岡県)
実施期間	令和 8 年 1 月 25 日(日)
実施回数	会場 1 回

【事業実施の成果・課題】

<成果>

平和事業において大規模ホール（岡垣サンリーアイ・500 人収容）で児童が朗読するのは 3 年に一度の実施であり、今回はその当該年だった。平和への思いをアナウンサーと児童、地元住民が分かち合うために、朗読が果たす役割は大変に大きかった。特に今回は新しい試みとして、児童も平和を題材にした作品の朗読に加わってもらった。（過去は平和宣言のみの参加）当初はセリフの朗読に対し、恥ずかしがる児童もいたが、対面、およびオンライン指導によって目覚ましい上達をみせた。アナウンサーが朗読のテクニックを教えるだけでなく、物語の情景や登場人物の心情に思いを馳せるよう指導することで作品全体がより強く心に届く内容になった。

一つの作品を 3 つのパートに分けて 8 人の児童とアナウンサーがリレー形式で朗読した。それぞれの担当の場面にあわせた声色や強さ、間をとるなどの工夫により会場の観客の心をつかんだ。何より子どもが無垢な声で朗読することで、より平和の尊さが際立った朗読会になった。

26 年 8 月の実施予定が大雨の影響により 5 か月延期されたが、その間も子どもたちは練習を続けた。それもあって終了後は全ての児童が自信に満ち溢れた表情になっていたことが印象的だった。

<課題>

朗読会に向けた子どもに対する指導は、対面 1 回、オンライン指導 2 回だった。学校や家庭で稽古を行うことで作品の理解は深まり、技術も上達した。近年は子どもの受験や習い事などで、練習を行う際にアナウンサーとの調整が難しいケースもある。舞台本番まで余裕をもって指導を開始することが重要だと認識した。今回は早めに取り組んだため、不都合は生じなかった。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

＜櫻井浩二アナウンス部長＞

子どもたちの潜在能力は、時に大人をも驚嘆させます。最初は幼い読みだった普通の小学生が、乾いたスポンジのようにアドバイスを吸収していき、本番では来場者が涙を流すほどの「表現者」になっていました。自らの可能性は無限大であることを感じる朗読会になったのではないかと思います。

＜下田文代アナウンス部専任副部長＞

子どもの成長には目を見張るものがありました。長所を伸ばすように意識して指導することで、子どもが自信をつけていく様子が手に取るように感じられました。無垢で純真な声がいかに人の心をつかむのか、朗読の大切なことを子どもから教わった気がしました。

＜井口 謙（入社８年目・主にスポーツ実況担当）＞

伝えることは楽しいと改めて感じる機会でした。児童はレッスン時から「前のめり」に取り組んでいて、ひと言ひと言にこだわる姿勢に私自身も学ぶものがありました。岡垣町での平和事業が今後も続き、RKB が関わっていけたらと願っています。

＜西野知美（ラジオ編成部）＞

子どもたちは、上手に間をとりながら感情豊かに朗読を披露してくれました。改めて平和について考えさせられる意義のあるイベントになったと感じております。

【教諭・子どもたちの感想】

＜海老津小学校教諭の感想＞

読み手として責任をもって表現しようと懸命に取り組んでいました。平和の尊さを「自分ごと」として捉えようとする成長を感じ、大変頼もしく思いました。今回の経験を通して、子どもたちは「平和の大切さ」と「人に思いを伝えることの重み」を学ぶことができたと感じています。この学びが、今後の学校生活や将来の生き方においても大切な礎になることを期待しています。

＜子どもたちの感想＞

- ・この経験のおかげで、いままで考える機会がなかった平和や戦争について考えることができました。人前に立つのが苦手な緊張したけれど、やり遂げたことで人前に立つことに自信がもてました。
- ・練習をしていくうちに、自信をもって朗読することができました。今ある生活と命に感謝して毎日を過ごしていこうと思います。
- ・初めは緊張したけれど、いざステージに立つと、とっても楽しくて、終わってから「もう一回やりたい！」と思いました。良い経験でした。